

第6回 ユース 発足準備会合

2007年5月17日(木)

15:00-21:00

UNU 6F Committee Room

参加者(敬称略)

<学生>

青木真理子	小尾絵生	高本優子	長谷川賢司
青羽真利	木村浩二	戸田愛矢	服部祐也
荒川靖子	木村友哉	中島佳代	原澤竜馬
飯岡哲平	河野佑太	中村恵太	廣瀬留衣
伊藤瞳	小沼大地	成沢祐乗	水野慎也
稲葉潤紀	坂下加奈子	沼百愛	村本智大
荻野智史	猿田宏司	野田文子	山田心健

計 28 名

<UNHCR>

職員 岸守一(駐日副代表)・千田悦子・小坂順一郎
インターン 牧村匠太郎(ユース)副島知哉(広報・渉外)

計 5 名
合計 33 名**【概要】**

- ① 岸守副代表によるブリーフィング
- ② ディスカッション 世界難民の日イベント

『決定事項』

- ・メンバー構成としては、菊川、司会×2、モデレーター、難民奨学生たち、(JPF 学生団体の船橋さん)、ユースメンバーが考えられる。
- ・想定できる流れ。
- ・オープニング(オープニング・ムービー)
- ・ユースのこれまで(発足までの経緯)と行く末をかたる。
- ・パネルディスカッション(菊川怜、難民奨学生)
- ・観客に混じって待機していたメンバーがいっせいに上着を脱ぎ T シャツを見せるパフォーマンス
- ・クロージング(歌、メッセージ)

『課題』

- ・誰を司会、モデレーターに選ぶか。立候補が基本だが、能力が要求される仕事になる。
- ・パネルディスカッション、および企画詳細の内容を詰めることが必要

③ 諸連絡

- ・Tシャツ ⇒投票形式にして決定(日曜 5月 20日 〆切、詳細は ML)
- ・ユースロゴ ⇒5月 31日を締め切りのため、引き続き募集
- ・バルーンプロジェクトの案内ボランティア ⇒インターンが今後参加確認をする

1、ブリーフィング(岸守副代表)

レストランとしてのユースのあり方を確認する。「厨房としての HCR」の存在意義や、難民支援を知らないお客さんに提供するシェフとしてのユースメンバー。コンテンツとしての、シンポジウム/菊川怜さん/難民奨学生などをどう調理するか。

2、WRD イベント(進行 水野、小尾)

ユースメンバーの世話役としてのフォーカルポイントの二人の役割の確認。

以下、ブレインストーミングで挙げられた案一覧。

○立上げ関連

- ・ユース紹介 写真とメッセージを書いたボード
- ・選手宣誓(閉会)
- ・ロゴ、キャッチフレーズ

○菊川怜

- ・座談会形式
- ・プレゼン形式(パワポ)
- ・座談会と統計グラフの融合

○難民の現状の紹介

- ・民族衣装
- ・難民奨学生の体験談
- ・海外とのスカイプ
- ・パワーポイントで写真などの発表

○来場者参加型

- ・メッセージを書いてもらいボードに貼る
- ・歌、ダンス

○その他

- ・民族衣装、メッセージ性のある士気
- ・風船にメッセージ

- ・緒方貞子さんビデオメッセージ
- ・歌とユースからのメッセージボードの融合
- ・表参道練り歩き

ここで、ユース立ち上げと他のプロジェクトの関係を確認する目的で Balloon Project のブリーフィング(千田さん)

- ・スカイプ
- ・料理教室、かまど作り
- ・擬似難民キャンプ
- ・カクマキャンプ、NGO の映像を流す
- ・難民パフォーマー

* 雨が降った場合の、テントプロジェクトの代替案

以降、岸守さんを中心に、ユースの提案に対して岸守さんがコメントするというけいしきで議論が展開される。

岸守さん:

- ・難民の造った作品などを、ビジネスのサイクルに組み込めるようなプロジェクトを考えるとするのは、Art Refugee との関連づけられるのではないか。
- ・菊川怜を中心にイベントを考えるのがよいのではないか。
- ・プレゼンをおこなうのは、4 部作(写真展、シンポ、テントプロジェクト)のラストとしての位置づけや、来る人たちの知識ベースを考えるとそぐわないかもしれない。

ユースメンバー:

「なにも知らない学生」という立場のユースが、どのようなリアクションするかをみせることの重要性

岸:

- ・歌を歌うことで、なにを言わんとするのか。
- ・難民問題についての入りやすい「入り口」を提供する必要がある。
- ・CSR とのかかわり(ブランドイメージ、社員教育、1 割募金などの Additional Value)も念頭にいれてはどうか。例えば、難民奨学金の出所を企業と結びつけて、それを学生からアプローチするなどの企画がありえる

ユースメンバー:

難民大学生について、かれらをサポートする立場にあるので、彼らを利用するようなスタンスはよろしくない

岸:

- ・難民の彼ら自身にも、「訴えたい」というインセンティブになる

ユースメンバー:

難民奨学金の面接を、企業自身が難民とするというような企画はどうか

岸:

- ・難民問題をみなが考えてくれているという前提ではなく、関心をもってもらうようなきっかけを与えるようなイベントを考える

ユースメンバー: 企業の人たちが参加型になるようなアプローチはどうか。企業人に協力を請うのではなく、いち社会人としてユースの考えにどうレスポンスするのか。企業説明会のようなグループセッションを行ってはどうか。

岸:

- ・会場設備の条件が厳しいかもしれない。
- ・また、表参道、キャンプサダコなどの既存のプロジェクトを進めていく方向性が必要だ。

進行:

UNHCR ユースがイベントをどこまで主体的に行えるのかを確認したい。

岸:

- ・社会的責任から決定権は UNHCR にあるが、その中身と手段については学生のアイデアをすくいあげたいという UNHCR の立ち位置がある。

・話してほしいのは、誰を菊川怜にぶつけるのか(代表/何も知らない学生/希望者) 司会に誰を想定するのか(菊川/プロの司会/学生)など。

ユースメンバー:

・難民問題というよりは、学生が日本でなにができるのか、という視点。学生らしさ、元気を活かして、マラソンなどスポーツを利用したチャリティ。チャレンジイベント＝グループでマラソン、トレッキングをする。それに対してスポンサーについてもらう。メディアスポンサー、ファンディングなど企業の特技を活かしたサポート。WRD 当日はチャレンジイベントの告知のようなイベントをする。できれば菊川怜の継続的な関与があればいい。

千田:

- ・時間的制約があるために、メインのイベントを1つ決めるのがよいか

岸守:

- ・座談会を中心に、難民奨学生をおりませるというよう方向性か。

- ・座談会をするとして、誰が参加するのか、他のメンバーはどうするか。

ユースメンバー

- ・宣言と共に会場に散らばったユースが上着をぬぐ。
- ・スライドでユースメンバーのメッセージを流す。(小坂さんのリマインド)

岸守:

- ・その流れで壇上にあがってみんなで歌を歌うのは面白い。

ユースメンバー:

- ・座談会では、でれない人でもコミットできるようなやり方を考える。
- ・誰がメインで座談会に参加するのか。
- ・座談会で話す内容によって司会・モデレーターををどうアレンジするかが重要。

岸守:

- ・代表・副代表、加えてモデレーター。
- ・立候補制をとるかどうか。話のうまさ。モデレーターは話をどれだけ引き出せるのかが求められる。

千田:

- ・菊川怜さんになにを聞きたいのか
- ・先日程われたインタビューと内容がかさなるかもしれない。

岸守:

- ・メンバー構成としては、菊川、司会×2、モデレーター、難民奨学生たち、(JPF 学生団体の船橋さん)が考えられる
- ・想定できる流れは以下のようなものか。
 - ・オープニング
 - ・ユースのこれまで(発足までの敬意)と行く末をかたる。
 - ・パネルディスカッション(菊川怜、難民奨学生)
 - ・観客に混じって待機していたメンバーがいっせいに上着を脱ぎ T シャツを見せるパフォーマンス
 - ・クロージング
- ・だれが、司会、モデレーターになるのかという問題

3、諸連絡

- ・T シャツ ⇒ 投票形式にして決定(来週月曜日 21 日ユニクロ 〆切)
- ・ロゴ ⇒ 5 月 31 日を締め切りのため、引き続き募集
- ・バルーンプロジェクトの案内ボランティア ⇒ インターンが今後参加確認をする

以上